JEGニュースレター176号

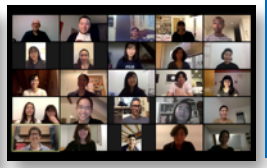
www.jegschweiz.com　　２０２０年９月２０日

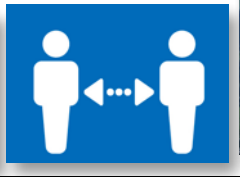
小さな証
ゲルスタ前牧師を天に送ったあとも、ウェンディ夫人はOMF宣教師として多岐に渡る活動を継続されています。P2

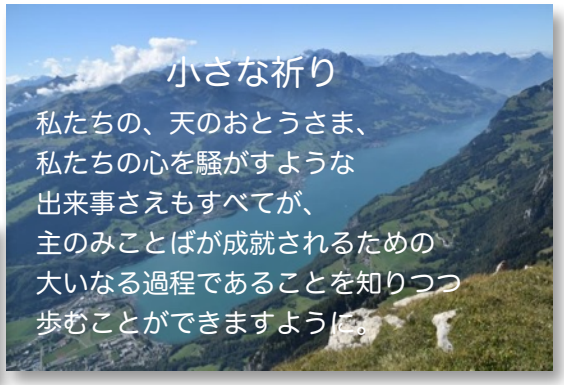
教会堂にて礼拝再開
３月から使用不可となった会堂で、８月９日、５ヶ月ぶりに礼拝が再開されました。　p3

FATユースプログラム
ユースの間で自主的に生まれたオンラインでの聖書の学びが、集いが中止になったのを受け７月末に開催されました。　P4＆5

思いがけない状況
春には夢想だにしなかったことが世界的規模で起き、世界の在り方もキリスト者の生活もすっかり変えられました。　P6–P16







わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。　ヨハネの福音書　15章5節

チューリッヒ州グルユーニンゲン村のブドウ畑

誰もが夢想だにしなかった状況下に生かされている私達。しかも世界的な大問題。そんな中にあって、神様と私の関係にどんな変化があったのだろうか？気付かされたこと、感謝に思ったこと、反省させられたこと、嬉しかったことを世界に散らばる邦人クリスチャンにお尋ねしました。

ちいさな証

祈りの力

ゲルスタ・ウェンディ
スイス日本語福音キリスト教会会員

20年間日本で働いた後、続いてOMFという宣教団体の下で今はスイスで働いております。私の活動には二つの部分があります。

その一つはスイスにいる外国人への働きです。（難民に仕え伝道する事そして日本語教会で奉仕をさせていただくこと）もう一つは「Mobilisation」という働きです。「モビリゼーション」とは何でしょうかというと、「教会とクリスチャン一人一人に神様の全世界的なご計画を知らせ、それにどうやって参加できるのかを教え、その聖なる責任を担うように励まし、導く事」です。

以前から難民の方たちの間で働いてきていたので、コロナ禍の間はもっと知っている方たちを支え励まし、そしてできるだけ祈りと聖書の話もするように心がけています。

スイス日本語福音キリスト教会でどうやって奉仕できるのかという事は少しずつ神様が導いてくださると思っています。Zoomなどを使う事を通して、色んな可能性が開けてきました。

ただコロナ禍の間の「モビリゼーション」は難しいです！日曜学校やティーンズ・グループ、礼拝やシニア・グループへの訪問は無理で、教会の人たちと会えなければ、どうやってインフォーメーションとモティベーションを与えられるでしょう？！「神様、導いてください！」と祈りました。そんなとき、友人がとても良いブログのリンクを送ってくれました。
（https://thinktheology.co.uk/blog/article/the_corona_virus_experiment）

その中には、昔のOMFの宣教師、ジェームズ・フレーザー師についての話が書いてありました。フレーザー師はヒマラヤの近くに住んでいる「Lisu」という中国の民族に福音を伝えようとしました。冬でも平地にある村々は普段通りに訪問出来たけれど、山にある村々を訪問するのは大雪のせいでとても時間がかかり、危険も伴い、大変でした。フレーザー師は神様に文句を言いました。「なんで雪を少なくしてくれないの？！僕はどうやって山に住んで居るクリスチャン達のケアができるでしょう？」でも雪も神様のご計画ではないかと思うようになったので、フレーザー師の考えが変わりました。文句を言う代わりに、「祈りの実験」をすることに決めたのです！

平地の村は普段通りに訪問しましたが、山の村まで登る時間と力の代わりに祈りに専念する事にしたのです！春が来たとき、フレーザー師は実験の結果を楽しみにして待っていました。やっと山の村々を再訪できるようになった時、すごい事がわかりました！定期的に訪問した平地のクリスチャンたちよりも、訪問される代わりに一生懸命に祈られた山のクリスチャンたちの方が霊的に成長していたのです！

この記事を読んだ時、自分の働きに当てはめてみました。今のところ、実際に教会を訪問するのは無理であっても、すでに蒔かれた「種」が芽を出し、成長するように祈るのが今の私の働きの大切な部分だと神様が私に示してくださいました。

今年の一月にもたれた「ユティカ」というユース・キャンプの宣教の夕べからどうか刈り取りがありますように！スイスの教会とヨーロッパの日本人のクリスチャンたちが神様にすべてを捧げ、全世界のための責任を担いますように！願わくは、また実際に教会を訪問できますように。祈りの力について学んできた事を忘れずに働き続けたいと思います。

ルカ１０：２「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。」

２０２０年のユティカでヨーロッパに住むユースたちとともに。

1、会堂にて礼拝が再開

会堂での礼拝がコロナ禍で休止されてから５ケ月後、デューベンドルフMNRの地下会堂での礼拝が８月９日から再開の運びとなりました。また、遠隔地に住まわれる兄姉のためにも、これまでのZOOMでの礼拝も引き続きご利用いただける処置も取られ、８月９日の礼拝には９名の参加者が与えられました。また、感染予防措置をとられ再開された当日の会堂での礼拝には３９名が出席し、ともに心を合わせ礼拝を捧げる幸いに恵まれました。

当日のマイヤー牧師の説教 「メッセンジャーの権威」ほか、４月からの”メッセージ”、ならびにドイツ語翻訳のファイルは、スイス日本語福音キリスト教会のホームページからダウンロードしてご利用いただけます。https://www.jegschweiz.com/

８月23日の礼拝は、マイヤー牧師が休暇中であることを受けて、昨年、本帰国されたオーニンガー・マックス元宣教師が説教のご奉仕をされました。ただ、オーニンガー師の体調が優れなかったため、再びZOOMを用いての礼拝となりました。師の日本語とスイスドイツ語による優れたメッセージは、こちらでお聴きいただけます。→イエス様との出会い

2、講壇交換

９月６日（日）は、講壇交換でフランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博牧師ご夫妻をお迎えして礼拝を捧げました。矢吹博牧師は「神の計画は進む」をテーマにルカ２２：１−１３からみことばを解き明かして下さいました。当日のメッセージは、こちらでお聴きいただけます。→ 神の計画は進む

翌日は、サンクトガーレン市においても家庭集会のご奉仕をいただきました。以下は、会場を提供してくださったクスター姉のレポートです。

矢吹博牧師によるヨハネの福音書９章

はじめたった３人だけの家庭集会になるかと思っていたところ最終的に８人の方からご参加を望まれたのですが、先生ご夫妻と私が入ると三密になるのでご遠慮していただくうれしい悲鳴を上げることになりました。

多勢の方とそれぞれの聖書の読み方感じ方を分かち合えて思いもよらない聖書の見方を学ぶ良き家庭集会を持てて神さまに感謝いたしました。矢吹先生のそれぞれの方の思いを上手に引き出される話術また先生ご自身の聖書のご理解により何度も「目から鱗」を経験させていただきました。定期的にする家庭集会はどうしても時間の関係でなかなか全員が集まることができないのですが、今回のように単発にする家庭集会には大勢の方がご参加くださることがわかりこれからの家庭集会のあり方も考えさせられた家庭集会でした。

長時間の運転と礼拝のご奉仕の後お疲れでしたでしょうが先生には長い時間皆さまとのお交わりをいただき感謝です。主に感謝して　クスター節子

深井愛記音姉の歓送会　9 .Aug.2020

3、オンラインCS子ども会

ロックダウンで礼拝がなくなって子供たちも教会へ来れなくなりました。それでも子供たちとの繋がりを少しでも持とうとJEGの礼拝のある日曜日にCSZoomをしました。あまり長くすると子供たちも疲れてきますので、賛美、聖書のお話、聖句と、全部で１５分で終わるように努めました。
ご両親も協力してくださり、子供たちをスクリーンの前に座るようにしてくださいましたことは本当に感謝です。時には普段教会にあまり来ていない子供も参加してくれて、Zoomの良い面が見えました。
「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」テモテへの手紙第二４章２節　　レポート：トムセン千香子

4、深井愛記音姉が本帰国

バーゼル在住の音楽家・深井愛記音姉とは３年間の心温まるお交わりをいただき、スイスJEGで洗礼を受けられ、度々奏楽のご奉仕もされました。８月２５日スイスJEGのメンバーらに見送られ帰国の途につかれました。

翌日、無事に成田に着かれ検疫後、在欧日本人宣教会の嶋本宅にて自己隔離され、９月１０日、無事に故郷の福岡にお帰りになられました。どうか、ふるさとにおいても教会に導かれ、主の導きの元、よきスタートが切れますようお祈りします。

5、三輪愛博牧師が召天

シュトゥットガルト日本語教会で2000年から15年半、専任牧師として群れを導かれた三輪愛博先生が2020年7月21日に天に召されました。三輪牧師は温厚でユーモアあるお人柄で教会員に親しまれていました。ニュースレターの１７、18ページにおいて三輪牧師を慕う兄姉による寄稿文が掲載されていますのでお読みください。

6、ヨーロッパ・キリスト者の集い代表者会議

今年デュッセルドルフで開催予定であった第３７回ヨーロッパ・キリスト者の集いがコロナ禍のため中止を余儀なくされましたが、８月１日の代表者会議がオンラインで開催され、日本語教会／集会の代表者により今後の集いへの取り組みに関して真剣に討議されました。その結果、集いは欧州邦人教会の霊的遺産として引き続き継続開催することが確認されました。開催準備の責を負う実行委員に召命感に溢れる兄姉が与えられますようにお祈りします。

7、2021年ヨーロッパ・キリスト者の集いの第一信が発信

2021年7月29日（木）から８月１日までフランス・古都ストラスブールで開催予定の第３７回ヨーロッパ・キリスト者の集いは3月に発足した欧州の４つの主催教会から召された７人の実行委員によって、９月までに５回の委員会がZoomを通して集中審議が行われました。また、その第一信が８月８日に発信されました。

９月８日会場となる施設Ciarusに前払金の一部が、これまでの繰越金から支払われ正式に契約が成立いたしました。これまでの主の導きに感謝です。来年の集いに関する最新情報は、集いのホームページに随時アップロードされますので適時お訪ねになってください。https://www.europetsudoi.net/

8、世界各地からホットな情報が満載の月報／ニュースレター＆メルマガが届いています！

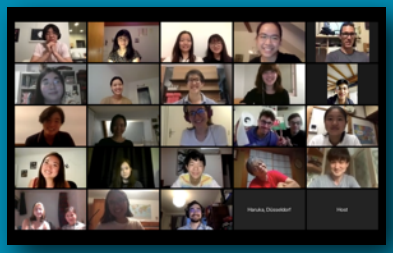
工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森祐理空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

2020年7月30日31日にFAT Youth Summer Program 2020 「人を生かすことば」がZoomを用いてオンラインで行われました。FATはヨーロッパで日本語教会の合同修養会であるヨーロッパキリスト者の集いのユースプログラムから生じたオンラインバイブルスタディーグループで、現在は5-10人くらいの人達が集まって月に一度くらいのペースでバイブルスタディーをしています。

新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延を受け2020年のヨーロッパキリスト者の集いが中止となったことを受け、何かユースの交わりと励ましのためのオンラインイベントを同時期に開催できないかという思いから、デュッセルドルフ日本語キリスト教会の渡邉航兄を中心に、スイス日本語福音キリスト教会のトムセン・カレン姉、トムセン・チャーリー兄と共に今回のオンラインイベントを企画しました。

講師のお二人の先生方を始め、今回のYouth Summer Program 2020のために背後で祈ってくださった多くの方々の祈りに心から感謝いたします。

当日はドイツ、スイス、フランス、オランダ、イタリア、イギリス、フィンランド、オーストラリア、そして日本などから部分参加含め50人近くの人が参加してくれました。有志による大規模なオンライン集会という初めての試みであったこともあり、準備の中では多少の難しさも経験しました。



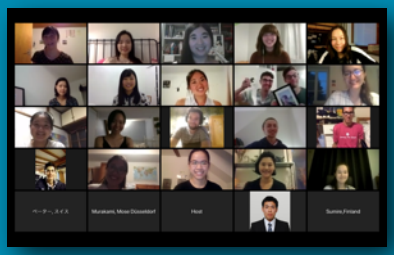
しかし、準備から当日の運営に至るまで若い世代ならではの機転の利いた臨機応変な対応があり、当日は驚くほどスムーズにトラブルなくプログラムが進行していきました(オンライン集会の裏で準備係の何人かが様々な対応をしてくれていました)。

プログラムは主にメッセージとスモールグループでの分かち合いというシンプルなものでした。初日はルカの福音書15章1-10節から「あなたは高価で尊い」というタイトルでデュッセルドルフ日本語キリスト教会のディーター・ヘーゲレ先生がメッセージをして下さいました。二日目はヨハネの福音書1章1-5節から「ともに歩む喜び」というタイトルで(人を生かすことば、人と人とのつながり、結婚について)フランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博先生がメッセージをしてくださいました。

スモールグループでの分かち合いはZoomのブレイクアウトルーム機能を使って行ったのですが、分かち合いを終わって再び集まった時のみんなの晴れやかな表情が印象的でした。一般的に参加者の反応を感じ取ることが難しいオンラインイベントですが、その表情がそれぞれが受けた恵みを物語っているように感じました。

一方、楽しい交わりの背後では、ユースの一人一人は日常的にさまざまな課題を抱えながら過ごしています。私たちの目には見えませんが、99匹位の羊を残してでも1匹の羊を探しに行かれる神様の愛と慰めが、それを必要としているヨーロッパ各地のユースのところに少しでも届けられたことを願ってやみません。

単発的な大規模集会は一つのきっかけに過ぎず、主イエス様の愛をもって日常的に関わり祈ってくれる身近な霊的メンターの存在が、一人一人に必要です。ぜひみなさまの身近にいるユースを覚え、継続的にお祈りいただければ感謝です。人と人、教会と教会が分断されがちなコロナ禍の厳しい現実の中で、地域教会の垣根を超えたヨーロッパユースの草の根的な交わりが主の愛の御手の中で結び合わされながら一歩一歩成長し、有形無形の豊かな実が結ばれていくよう、どうぞ覚えて引き続きお祈りください。



報告： 藤 原 誠
ミュンヘン日本語キリスト教会

FAT ユースプログラム

ユースプログラムの感想や証を集めてます！

皆さんと一緒に聖書を開くことができたこと、その後のグループにも加えてもら い、「水と油」のオーパはとても嬉しかったです。あの時のためにと、購入したバリ カンで刈った髪の毛も、また刈らねば…というところまで伸びてきました。あれからもう、一か月が経ったのですね。 来年は一緒に集まれるように…と神さまに祈ります。

矢吹博

とっても恵まれました！

今回はバタバタの参加になってしまったけれど、オンラインのメッセージとユースのみんなとの交わりを通して、主にある平安を感じられた貴重な会でした。
心に余裕のない時でも神さまから、「愛しているよ！」と直接語られているんだなあと思えて本当に感謝でした。
このプログラムを実現させて下さった先生方や、みなさんの働きに感謝します！
またみんなでオンラインで、あるいは実際に会って交わりの時が持てたらいいなあと思います。
ありがとうございました！

深井愛記音

楽しかったね！

ユースプログラムが終わって1ヶ月、語られたメッセージを改めて振り返りました。
99匹の羊を残してでも1匹の失われた羊を見つけ出すことをあきらめないイエス様。
初めからあり人を生かすことばであるイエス様。
人と人をつなぎ水と油を結び合せる界面活性剤であるイエス様。
コロナ禍で人と人が簡単に分断され、簡単に人が教会から離れていく中にあって、教会を超えたつながりやこのヨーロッパユースの交わりを大切にしたいと思わされました。

スモールグループを終えて戻ってきた時のみんなの晴れやかな表情が印象的でした！
次回こそは、リアルで会いましょう！！

藤原 誠 (年齢はユースか微妙)

みんなに会えて感謝

私にとって今年デュッセルドルフで行われるはずだった集いが2回目の参加になるはずでした。
新型コロナウイルスによってオンラインになったのが最初は少し残念だと思ってたんですけど、牧師先生たちが語って下さったメッセージがとても心に響きましたし、何よりも一年前ルーマニア以来見れなかったみんなの元気な姿を見れてとっても嬉しかったです。
振り返ってみるとユースの集いのおかげで沢山の新しい友達ができました。今回のビデオ集会を通して、この御縁の幸せ、教会としての人と人の絆に気付かされました。
準備やプログラムを頑張って作ってくださったチームにとても感謝してます。
ありがとうございました。

カステリ アンジェリカ

集まれてよかった！

今年のデュッセルでの集いがキャンセルになると聞いてがっかりだったけど、こういう形でオンラインでヨーロッパ中のユースと会えたこと、そして一緒に色々と話し合えたことが感謝です。もちろん実際に会うのとは全然違うけど、また集まれたらと思っています。
メッセージをしてくれた先生方にも感謝です！

トムセン　チャーリー

次は実際に会いたいな

今回初オンライン・ユースプログラムの準備の中、何人が参加してくれるか分からなかったけど、思ってた以上に恵まれてすごく嬉しかったです。オーガナイズしてきて良かったと思いました。オンラインでもオフラインでもまたみんなと交わりを持ちたいな。

トムセン カレン

楽しかったで !!

二日にかけて合計3時間という非常に短い集いだったけれども、充実した集いでした。メッセージ後の30分のSGだけでも、お互いの意見や経験を交わすことが出来て、とっても良かったです。

青木　レオ

集まれて良かった！！

数年前は毎年通っていた集い。家族のような仲間とオンライン越しでも話せた機会はとても嬉しかったです。神様にあって私たちは１つなんだと改めて感じさせられました。感謝！！今度はリアルで話せたら嬉しいなと思ってます。

God Bless you!!

山口由人

よかったです！

ガウブ ミヒャ・ルカス

楽しかったよ！

今年はキリスト者の集いがなかったけどZoomで色んなクリスチャンと会えてすっごく楽しかったです。特に日本からの人がわざわざ参加してくれたことがすっごく嬉しいです。

ヘーゲレ先生と矢吹先生のメッセージも凄く良かったです。元気付けてもらいました。

スモールグループで皆と交われて嬉しかったです。
また次回実際に会いましょう！

トムセン　マリア

ユースプログラムありがとう

最高のユースプログラムにみなさま参加してくれてありがとう。やはり若い同世代のクリスチャンと交わりが持てることは特別なことだと思いました！またやりたい！

渡邉　航　(年齢はユースか微妙)

良いプログラムでした

御霊さまの愛と力を、色んな形で、一人一人の人から感じてとても恵まれました。
どんな形かというと、牧師さまたちのメッセージ自体はもちろん、例えば、語りかけ方、オーガナイズなさった皆さんのチームワーク、トークタイムに聞いたみなさんの神さまとの関係や歩み、笑顔、真顔、冗談、優しい言葉、などなど…言い出すとキリがないです！沢山勉強になったことはもちろん、とても楽しかったです！オーガナイズして下さった人たち、牧師さまたちに特に感謝です。まだ学期始めでドタバタしていますが、みなさんとまた勉強してお交わりできるのを楽しみにしています。よろしくお願いします！

匿名

神さまありがとう！

今年はみんなで集まってごはん食べたり、飲んだりして楽しく遊んだりするのがむずかしいけど、それでも、みことばをたくさんの人たちと一緒に分かち合うことができたね。それはすばらしいこと。与えて下さった神さまに感謝。プログラムを準備してくれた人たち、先生たちにも感謝。

櫻井　零（年齢はおじさんw）

ひと味違う交流方法

オンラインだったので実際に会うのと違う感じでしたけど、それでも楽しめたので良かったと思います :) 2次会をも通して新しい友達も出来ました。

申し込みが始まったばかりの時は参加者の数がとても少なくて焦りましたが、最終的には多数になって嬉しかったです ^^

ユースプログラムを計画や準備してくれた方々に感謝です！

ビーケンブロック恩恵

高松：栗林公園

不思議な導きで

浜島敏
善通寺バプテスト教会

ヨーロッパの皆様。お元気にお過ごしでしょうか。こちら日本は、毎日３５度を超える猛暑日が続いており、さらにコロナの第二波が、今頂点に達し、感染者が急増しています。しかし、その中でも、神様に守られていることを感謝いたします。

私たち夫婦が、「集い」に最後に出席したのが、2016年、今から４年前になります。もうそんなになったのかと不思議に思うぐらいです。私たちの結婚５０年の記念の年でした。集いに参加することは、私たちの楽しみでしたし、多くの恵みをいただいたことを今更ながら感じています。

あの時、すでに知恵子は、認知症を病んでいましたが、まだ元気に歩くことができていました。昨年、どこかで尻餅をついたらしく、圧迫骨折をし、歩けなくなって、現在ケアハウスでお世話になっています。丸亀にあるキリスト教主義の総合福祉施設で、私も知恵子と一緒に入居し、生活を共にしています。

ところが不思議な導きで、この施設の中で、日曜礼拝を持つことができるようになりました。元ブラジル宣教師の中田智之先生が中心になり、私も月に１度か２度お手伝いさせていただいています。入居者１５人前後が集まってくださり、ともに神様を賛美し、御言葉を学んでいます。

このような礼拝は初めてという方がほとんどで、皆さんに馴染みの日本の曲に、歌詞をつけ、それを使って賛美すると、皆さんが喜んでくださいます。この前もミレーの晩鐘を見せながら、「夕焼けこやけで日が暮れて、村の教会の鐘がなる。お手手合わせて祈りましょう。今日も一日ありがとう」と歌いました。好評でした。

また職員対象のバイブル・サロンも始まり、これは月一で、賛美歌物語と話し合いで楽しい時間を与えられています。ひょっとして、歌の好きな方々と聖歌隊ができるかも知れません。少しでも神様の御用に立てば嬉しいです。今年は、工藤篤子さんに香川県でコンサートを開いていただく予定にしていましたが、コロナで中止になりました。残念です。来年できればと願っています。

どうぞ知恵子のために続けてお祈りください。皆さんのお祈りが必要です。最低、介助しながらでも歩けるようになって欲しいと願っています。

浜島知恵子ちぎり絵展のお知らせ

2020年11月18日（水）～22日（日）

浜島知恵子の四十年にわたる「ちぎり絵」と「シュガー・デコレーション」の集大成として、ちぎり絵作品約二五点、シュガー・デコレーション作品約十点を展示します。皆様のご来館を心よりお待ちしております。失礼とは存じますが、本人は現在療養中ですので、本人に代わりまして、ご挨拶とお願いを申し上げます。

個展のお問い合わせは：浜島敏まで
bapbswift@arrow.ocn.ne.jp

コロナを通して教えられた祭司の務め

工藤篤子
AKWM（工藤篤子ワーシップ・ミニストリーズ）

キリストに従う者であれば誰も避けて通れない苦難の時が来る。パウロも、神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならないと語っている。仕事もなくなり、預金も消え、親しい人々、家族さえもあなたに敵対するような時が来る。けれども、主はご自身に従う者をその御翼の陰に守ってくださり、神の国とその義を求める者には必ず全ての必要を備えてくだる。

その時に備えて、みことばに聞き、祈り、イエス様の心と一つとされて行こう――　2年前から、このようなメッセージを頻繁に耳にするようになりました。それらのメッセージを通し、これまでの生活の在り方にいい加減な部分があったことを悔い改め、苦しみを通って天の御国を目指す覚悟と準備が、少しずつ私のうちに積み重ねられて来たように思います。

そして今年、コロナ・パンデミックが始まったとき、いよいよ始まったのだと思いました。もちろん、黙示録が語る患

難期にはまだ至っていませんが、今はその前兆期。

AKWMも、すべてのコンサートがキャンセルになり、当初はどのように生計を立てて行くことになるのだろうかと思いました。けれども、スタッフも私も、神の国とその義とを求めて行く限り、主は必ず必要を備えてくださるに違いないと信じることが出来ました。そして、私たちが信じた通り、主は、これまで毎月毎月の必要を、奇跡のように備えてくださいました。またコンサートがなくなった分、みことばと祈りに専心する時が与えられました。スタッフも私も、今、神の祭司として、時に食事をささげ、時に夜の睡眠をささげながら、以前より多くの時間をとりなしの祈りにささげるようになりました。

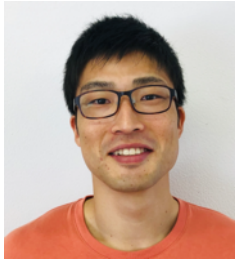
15世紀に生きたスイスのブラザー・クラウス（Niklaus von Flüe）は、隠遁して祈りに専心するよう主に導かれ、家族から離れて、約20年間、日夜とりなしの祈りをささげました。20世紀に入って、ナチスがスイスに侵攻しようとしたとき、空に大きな手が現れ、恐ろしさのあまり、ナチス軍はスイスに入ることができなかったという出来事がありました。

スイスの信仰者たちの何人かは、それは、ブラザー・クラウスの祈りによって、神がスイスを守ってくださったからだと言います。それほど義人の祈りには力があり、また、神は私たちの祈りを通して、世紀を超えて働いてくださるお方であることを覚えます。これからも、主から力をいただきながら、天の御国に導き入れられるまで、コロナを通して教えられた祭司としての務めを、しっかりと果たして行きたいと思っています。

想定外の状況でも

矢部晶宏

宇都宮市・峰町キリスト教会



世界的なパンデミックの最中にあっても、主イエスさまが皆さまお一人お一人を強め、主にある希望と喜びで満たしてくださいますようお祈りしています。

私たち夫婦は、オーストリアで難民や移民（ほとんどがイスラム教徒）に福音を伝える働きに携わっています。今年1月に家族4人でドイツでの最終研修に参加し、2月に念願のオーストリア入国を果たしました。住まいとなるアパートを契約し、息子の小学校が決まり、家具や家電を揃えました。教会訪問のため一度スイスに渡り、再びオーストリアへ向かおうをしていた矢先、スイス南部でロックダウンにあいました。宣教団体の指示により、アパートの契約を解消し、日本帰国を余儀なくされました。現在は日本で待機しています。

当初の予定と大きく違う現状ですが、毎日感謝しながら家族みんな楽しく過ごしています。現在の住まいは仮住まい、車も借り物、収入も半減して普通に考えたら心配でたまらないのに、妻も私も心は平安でいっぱいです。それにはある出来事が大きく影響しています。オーストリア派遣を間近に控えた2年前の夏、私は熱中症をきっかけに、ひどいバーンアウトを経験しました。まだ完治していません。

宣教師として仕えることどころか普通の生活もままならない、苦しみの真ん中で神さまは私の「成功の定義」が間違っていると教えてくださいました。それまでの私の成功とは、何かを達成すること、成し遂げることでした。しかし、その“成功”を得るために休まず走り回った結果、残ったのは心身の痛みと思うように動かない体。

私たちクリスチャンの成功は、「神さまに愛されて（神の愛を受け取って）、神さまを愛すること」。何か達成できるかどうか、世の目から見て成功するかどうかは二の次、神を愛して生きることの副産物にすぎません。このことが深いところで分かった時、ものすごい開放がありました。無収入の時期もありましたが、神の国と神の義を第一に求める中で、必要なものはすべて与えられてきました。

私たちには明日のことは分かりませんが、明日をも支配し「わたしはあなたを愛している」と言われる創造主がいつも共にいてくださいます。このような時だからこそ、ますます神さまの愛を受け取って、神さまを愛して歩みたいと思います。

サフランのように

高橋裕子

京都バプテスト教会

この3月、京都にゆかりの4人のクリスチャン女性と1人の男性が集まって「サフランの会」という祈り会を持つようになりました（吉村美穂氏・兵頭ひろみ氏・西山亜有子氏・野田常喜氏・高橋裕子）。高橋以外はプロの音楽家のみなさまです。サフランの名称は、イザヤ書35章1節「荒野と砂漠は

日出ずる国から

楽しみ、荒地は喜び、サフランのように花を咲かせる」から頂きました。
祈り会を持つようになってすぐ、コロナ禍が日本を覆いました。

サフランの会もオンラインの祈り会となりましたが、このコロナ禍の中で、私たちをどうか疲れを覚えている人たちのために用いてくださいとの祈りを重ね、たましいを癒す音楽ＣＤの制作配布を、との思いに導かれました。

「主よ人ののぞみの喜びよ」など、それぞれが音源を持ち寄り、最後の１曲（君は愛されるため生まれた）は高橋もふくめて全員演奏で録音して10曲をおさめたＣＤとなりました。多くのみなさまの祈りに支えられ、この7月に完成させていただけたことを主に感謝しています。

さらに感謝なことに、このＣＤの完成コンサートを7月18日に大津市で持つことがゆるされました。実はこのコンサートは、伝道集会開催のために半年前からコンサートホールを予約しておられた教会から、このコロナの中なので伝道集会は開催できないが、何か使っていただけませんかと予約をお譲りいただいたものです。そして奇跡というか、この週はコロナ感染も少なくリアルコンサートも開催できましたが、このコンサートの翌日からはコロナ第二波が襲ってきました。まさにすき間の、ベストの日を選んでコンサートを開催させてくださったと、主に感謝申し上げています。

左から西山亜有子さんクラリネット　野田常喜さんピアノ吉村美穂さん歌　兵頭ひろみさんキーボード１高橋裕子キーボード２）

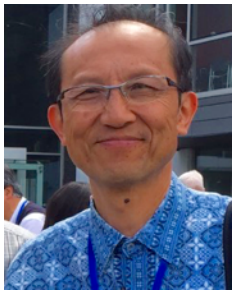
今、このＣＤを、教会や医療者のみなさまに無料で配布させていただいています。中には1曲目で涙ぐんだとのメッセージを送ってくださった方や、日曜礼拝の瞑想の時間に1曲ずつ用いてくださっている教会もあり、励ましをいただいています。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。」ヨハネ15：16

私たちひとりひとりの名前を呼んで導き出してくださった神さまが、私たちひとりひとりにコロナ禍の中でも用いられる道を拓いて喜びを与えてくださっていることを幾重にも感謝しています。

イエス様ならどうなさるか？

永井敏夫
在欧日本人宣教会



先月、一冊の古い本にふと目が留まった。だいぶ前に読んだ本だが、今再び読むようにという思いが来て、早速読みだした。タイトルはIN HIS STEP。100年以上前の古典で、テーマは「イエスさまならどうなさるか？」（What would Jesus do?）

アメリカのある教会の牧師が、ひとつの出来事を通して主から促しを受け、「イエスさまならどうなさるか？」を基準に生活をするように教会員に呼びかける。それへの応答として、教会員たちは自分がしてきたこと、自分が欲することをするという判断を離れ、「イエスさまならどうなさるか？」を考え行動を選んでいく。登場人物の一つ一つの選択と、それ故の様々な出来事に、はらはらしながら応援している自分がいた。

ところで、思いがけない環境や状況に私たちは置かれることがある。自ら選択をした訳ではないが、その中に自分がいることもある。災害や事故に遭うと、そうでなかった以前に戻りたいと思い、「何故？」という問いや様々な感情が沸き起こる。さらには、以前の生活環境に戻れないことへの歯がゆさや、そうできない故の苛立ちもあるだろう。イエスさまに目を留めることが大切だと思っていても、なかなかそうできない自分の姿に幻滅することさえあるかもしれない。

イエスさまは一体どこにおられるのだろうか？悪しき者はやっきになり、私たちに働きかけ、私たちの生活から主イエスキリストを遠ざけようとしてくる。

しかし、どのような環境や状況にあっても、決して変わらないことがある。それは主ご自身が私たちひとりひとりと一緒にいてくださるということだ。悪しき者よりもさらに近くに主ご自身がいてくださるのだ。

これからも分からないこと、予定に無いこと、予測できないことが多い世界に私たちは生かされていくことだろう。「イエスさま、あなたはどうされますか？」を思いながら、かつ口にしながら私は主と共に歩むことを日々選んでいきたい。

「主に愛されている者。彼は安らかに、主のそばに住まい、主はいつまでも彼をかばう。彼が主の肩の間に住むかのように。（申命記33：12）

日出ずる国から

熊本：阿蘇

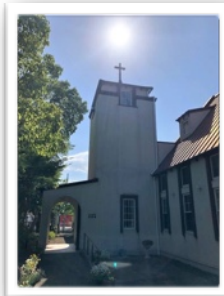
その一点を忘れずに

蜂屋博寿
日本キリスト教団津教会牧師

主に在る兄弟姉妹の皆様。

今なお世界中を覆う新型コロナウイルスの不安の中でも、神の守りの中をお過ごしのことと思います。新型コロナは日本においても東京や大阪などの大都市だけではなく、比較的地方である三重県の教会にも大きな影響をもたらしました。

私が牧する津教会が属する日本キリスト教団は三重県に１７の教会があります。４月に日本全国に緊急事態宣言が出され半数近い教会が、一同に集まっての礼拝の中止を余儀なくされました。しかし「ピンチをチャンス」と考え、オンラインでの礼拝配信を始めた教会もあります。そこには何とかして礼拝を共にしたいという思いが現れています。



その中で津教会（礼拝出席30名程度）では、聖餐式のみを中止し、礼拝堂の換気、出席者のマスク着用、手の消毒をお願いし、ほぼ通常通りの礼拝を続けました。出席人数に変化は見られず、現在も同じ対応で礼拝を続けています。

けれども私が代務を務めていた三重県の北、大都市の名古屋に隣接する桑名教会（礼拝出席５０名程度）では、名古屋に通勤する教会員も多いことから、会衆が一同に集っての礼拝の見合わせを決断。４月２６日から１か月、会堂での礼拝は説教者と出席可能な礼拝奉仕者によって献げました。その間、教会員の方々には、ご家庭で共に礼拝を守って頂くために週報と説教原稿の郵送、YouTubeによる礼拝ライブ配信を行いました。（現在は、通常通りの礼拝に戻っていますが、礼拝配信は継続されています。）

津教会では、困難な状況の中でも共に礼拝を守れる幸いを感謝する時となり、桑名教会では、再び集められて礼拝する時を待ち望みつつ、離れていても主によって結ばれていることを味わう時となりました。

新型コロナの中、２つの教会に仕える中で、改めて教会はエクレシア（主の招きによって集められた群れ）であることを思わされました。この後も新型コロナとの闘いは続きます。それぞれの教会の置かれた現状によって、その対応も異なるはずです。

しかし「神を仰ぐために、教会は一つとなり結ばれている」。その一点を忘れず、不安だけに目を向けるのではなく、十字架と復活という破れない希望に支えられて、これからも三重で兄弟姉妹たちと共に、神を仰ぎ続けたいと願っています。

どうぞ日本の教会のためにお祈り下さい。私たちも皆様のために祈ります。主を証しする全ての教会の上に祝福が豊かにありますように。

素晴らしい成長のステージに

ローゼンクランツ・クリスチャン&直美
東京ジーザズチャーチ宣教師

一旦落ち着くと思われたコロナウィルスも7月に入ると第2波が起こり、予定していた夏の計画の変更を余儀なくされました。例年もたれる宮崎、福岡での教会でのサマーキャンプも規模を縮小し、日帰りにするなどの対策をし、また感染者の多い東京からの訪問者を恐れる人々がいることを考慮して、私たち自身も今回は参加を見送りました。とても残念でしたが、このことでかえってリーダーたちも奮い立ち、自分たちでキャンプをすべて全うし、メッセージし、また洗礼式も持たれ、神様が働いてくださることを体験するすばらしい成長のステージとなったことを感謝します。

東京の教会では、これまで最も人ごみの多い渋谷近辺で小さなスペースで礼拝していましたが、この夏の期間は三密を避けるために多摩川の河川敷で礼拝を続けました。これが若い人たちが中心の私たちの教会にとってはとても好評で、広々とした場所で賛美ささげ、メッセージを聞き、終わった後にはボールで遊んだり川で泳いだりでき、コロナで自粛を強いられる人々にとっては日曜がますます楽しみになるようなセッティングとなりました。そのような中でも少しずつ信じる人たちも起こされてきて、バイブルスタディのグループも始まり、9月には新宿と世田谷の2か所でバイブルスタディが始まることになっています。

また、このコロナ期間に、ネパールの友人教会がロックダウンで食糧不足に陥っていることを聞いてから、私たち3つの教会でサポートを始めました。5月から今に至るまで、6回のサポートを通して約1700人以上の1か月分の食糧にあたる必要を満たすことができました。コロナの影響で自らも経済的危機や問題の中にある教会の兄弟姉妹たちが、ささげることを通して海外の兄弟たちに仕える喜びを体験することができることも大きな恵みだと感謝しています。

このような時期でのびのびと働きができないような息苦しさを感じそうになりますが、神の国は物理的なものではなく、いつどんな時でも、実はこのような時にこそ前進し続けるということを確認しつつ、また告白しつつ神様を信頼していきたいと思います。皆様の尊いお祈りを心から感謝いたします。

止まられた時の中で

テーリカンガス里佳
フィンランド

コロナウイルスが流行る半年前から、鬱と診断されほとんどの時間を家で過ごしていました。「神様の導きの中を生きてきたのに、なぜこんな病にならなければいけないのか」と去年の秋には全くの暗闇の中にいました。その間に神様が私の悪感情と罪を取り扱ってくださり、自分でも全く見えていなかったことを見せられ、何度も悔い改めに導かれました。

コロナが始まった頃に気力も体力も戻ったと思ったのですが、薬をやめてからしばらくは良かったのですがまた症状が戻ってきてしまいました。主はそこで私の高慢さや愛のなさそして自己中心を示され、へりくだることを教えられました。

本棚にあったバジレア・シュリンクの「試練の祝福」を読むように導かれると、試練を通して神様は私を私生児ではなく神の子として取り扱ってくださっていること、試練を通してきよくされることなどのメッセージを受け取り、鬱やコロナにも感謝できるようにされました。シスター・ソハラが2009年のフィンランドでの集いの時に持ってきてくれた本で、もちろんその時にも読みましたが当時の私には全く理解できなかった内容が、霊の目が開かれ理解できるようになったことを感謝します。

そして、主はこの試練を通して私の今までの考え方を変えたいのだと言うことに気がつかされました。今までは「主に頼る」と言いつつ、結局はすべて計算づくで自分の力ばかりに頼ってきましたが、全ての活動から退くしかなくされ、「私に道を開けなさい」と主が示しておられるのだと確信に至りました。コロナ中・後は今までの人の限界ある考えかたでは先に進むことができないのだと示され、人知を超えた主の御言葉に頼りつつ生きるよう教えてくださる主に感謝と栄光を捧げます。

勝利を得るものを

シスター・ソハラ
独ダルムシュタット・マリア姉妹会

ヨハネの黙示録３章１５節から「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。・・・あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。

・・・実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっていない。わたしはあなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買い、あなたの裸の恥をあらわにしないために着る白い衣を買い、目が見えるようになるために目に塗る目薬を買いなさい。
わたしは愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。
勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。」

このところずっと心に語られているイエス様の言葉です。「口から吐き出す」という非常に厳しいお言葉で始まり、すばらしい約束でしめくくられています。心を深く探られ、『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』『隣人を自分のように愛しなさい』という最も重要な掟を知りながら、神様と人に対し、自分がどれほど罪を重ねているかを知らされる日々です。今日という、なお恵みの日に、悔い改めという道が開かれていることを感謝します。そしてイエス様が成し遂げてくださった贖いの御業のゆえに、この者をも勝利者とすることのできるイエス様を見上げ、心から信頼し、永遠のゴールから目をそらさず、転んでも起き上がり、走り続けることができますよう！

今度こそ変われるか？

冨永重厚
パリプロテスタント日本語キリスト教会

全世界を創造され今も支配しておられる神さまが何故コロナウイルス感染拡大を許しておられるのか。この問いはおそらくすべてのクリスチヤンが持っておられる真摯な問いである。

あまり安易に懲罰的警告と受け取ることは避けたいがこの背後に神さまからのメツセージが必ずあるはずだと考えたい。誰もがコロナ後の世界は「前」の世界とは全く違うはずと考えている。そして歴史的に見てもこれまで世界的疫病によって世界が一変したことを説く。

欧州の日本語教会／集会から

しかし、本当に世界が変わるためには我々一人一人の価値観が「徹底的に」変わらなければならないのではないだろうか。

実は聖書の価値観は「この世の価値観」と徹底的に違うことに目を留めたい。イエスは「山上の垂訓」の最初に「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです」と実に驚くべきことを語っている。「心の貧しい者」とはどんな者で何故「幸い」なのでしょう。このイエスの言葉を直接聞いた弟子たちの驚きはどれ程大きなものだったでしょうか？果たして理解できたでしょうか？

さまざまな解釈が可能でしょうが「心の貧しい者」とは「自分には誇るべきものが全く無い」と心の底から嘆く者です。誰でも自分には少しは良いところがあると思いたいはずです。しかし「自分には何一つ良いところが無い。自分の心はまったく空っぽである」と考えた場合果たして人は生きて行けるでしょうか？生きて行けないのではないでしょうか。

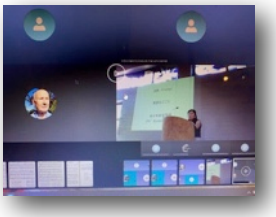
だから人は誰でもほんの少しであっても自分には良いところがあると思いたいのです。このイエスの言葉は実に驚くべき言葉であり私たちの価値観を徹底的に変えるものです。何故なら真に「心の貧しい者」になるためには「徹底的に謙遜に」ならなければならないからです。そしてこのことは私にとって最も難しいことだからです。コロナ下にあってこのイエスの驚くべき言葉に思いを巡らせています。

思いがけない状況下にあって

佐々木良子
ケルン・ボン日本語キリスト教会

私は毎年3月前後に、日本へ宣教報告のために1ヵ月程、一時帰国させて頂いています。2月末、出発する時、日本では新型コロナウイルスの感染がピークで、その中に飛び込んでゆくような状況でした。ドイツに帰国する頃には収まるだろうと楽観視していましたが、滞在中に欧州まで一気に広がり、事態の深刻さを知った次第です。

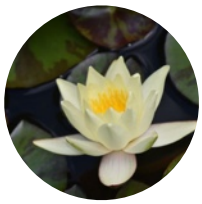
周りの方々は私がドイツに再入国できるのかと心配されましたが、領事館情報では永住権取得者、若しくは滞在許可証を持っている者は入国できるとのことで安心していました。しかし、飛行機が減便から欠航となり、急遽予定を早めて最後の便でギリギリセーフ戻ることができました。因みにこの便は未だに欠航のままです。ドイツに再入国できたのは奇跡的で、廻りの方々のお祈りによるものだということを肌で感じたものです。



留守の間は近隣教会の先生方に説教をお願いしていましたが、ドイツでも会堂での礼拝が禁止となり、ある先生がスカイプ礼拝の環境を整えてくださったので、休むことなく毎週礼拝をお献げすることができ助けられました。現在はオンライン同時配信で月に一度、会堂で礼拝をお献げしていますが、基本的にはスカイプで諸集会を行っています。ご高齢の方が多い教会ですが、お子さんやお孫さんのお手伝いを頂き、皆さんがインターネットを使いこなしておられ励まされています。又、日本からも礼拝や、諸集会に参加してくださり思わぬ恵みが与えられています。

コロナ禍を初めとして目の前の出来事に翻弄されながら人が生きるこの世界は、何と危うく脆いものかと、つい思ってしまいます。しかし、私たちは神によって造られ、神の命に与っている者ですから、この世がどのような状況であろうとも、それらに押し潰されるような命ではないことを、私も含めて全ての人々が信じて歩んで参りたいと願うものです。

このような今だからこそ、与えられた命に感謝して、敢えて積極的に生きることが新しい未来に繋がるのではないか、と思い巡らしています。これまでの固定観念を払拭し、現状と共存しながらバランスをとっていく知恵が神様から与えられますように願っています。世の中がどうであれ、先が見通せなくても、やるべきことは必ずある筈ですから、先ずは今を淡々と過ごす時なのだと思わされ、神様に祈り求めているところです。



小さな願い

Vogeli すみ子
スイス日本語福音キリスト教会

今年は東京オリンピックがあると期待と希望を持ってスタートした2020年でした。しかし、1月20日頃に中国の武漢市でコロナウイルスによる新型肺炎が始まり、2月後半には中国での死者が2,500人にものぼり、日本、韓国、イタリアで

欧州の日本語教会／集会から

の感染者も急増していきました。3月に入ると日本の学校は休校となり、感染者が激増したイタリアでも学校封鎖などの措置がとられました。スイスでは3月16日に非常事態宣言が発表され、欧州の他の国においても感染症例が増え続け、不安と怖れがまるで霧のように私達の生活を取り囲んでいるようでした。3月10日現在のスイスでの感染者数は475人、死亡者数は3人でした。

その後、この感染は世界的なものとなり、国境閉鎖、学校閉鎖、必要以外の外出禁止、集会の禁止、手洗いの励行、マスクの着用、他人との間に一定距離をとる、など色々な措置がとられて来ましたが、アメリカのジョンズ・ホプキンズ大の集計によると8 月 22日現在、新型コロナウイルス感染症による死者は世界全体で80万人に達し、感染者は2,300万人近くに上っているそうです。日本の九州ぐらいの大きさのスイスでは、8 月27日現在、累計感染者数は40,900人、累計死亡者数は1,723人とのこと。このままいくと、全世界の死亡者数は100万人を超えるのかもしれません。この莫大な数字を見る時、目に見えないウイルスの破壊力の怖ろしさを思わされます。死の床にあっても感染予防の為に家族と会うことも許されず、また十分な治療を受けられなかった方々も沢山居たことでしょう。この数字は神様に創造され、私達と同じようにこの世を人として生きた方々の人数であり、それぞれの方々の人生がありました。どんな人生だったのだろう？ご家族はどうされたのだろうか？とか、そんな思いが私の心をとらえたりしています。

自分の身を危険にさらしながらも、任務と使命感を持って治療に当たって下さる医療関係者の方々、どうしても出勤しなければならない仕事の方々を覚えてよく祈ってきました。そんな中、ショックな一枚の写真を目にしました。アメリカで死者数があまりに多く、埋葬場所が間に合わず広い駐車場に死者を詰め込んだコンテナが置かれていたのです。見捨てられた物の様な状態に何とも言い難い悲しみを覚えました。これが今の現実なのだと思うともっと辛いことでした。

もちろん、楽しみにしていたオリンピックは延期となり、計画していたプランもすべて白紙になりました。そんな中、色々なことを考えていました。誰もが感染する可能性がある中で、自分が生かされていることに複雑な思いを持ち、私は神様とちゃんと向き合って生活しているのだろうか？と思わされたのです。もっと聖書をじっくり、ゆっくり読んで神様のことをよく知ろうと努力をし始めました。私という小舟の錨を神様の前に下ろしていたつもりでしたが、世の荒波、押し寄せる問題という波に流され、少しづつ離れて来ていたのでしょう。自分の人生を振り返り、折にふれ私にとっては奇跡と思えるような道を開いて来て下さった神様に、これからも祈りつつ頼って歩む者でありたいと心から願わされています。

コロナ禍ばかりで無く、世界では飢えのために亡くなっている方々がたくさんいます。ハンガーゼロ・ニュース（日本国際飢餓対策機構）によると、一分間に17人（内12人が子ども）、一日に2万5,000人、一年間では約1,000万人が飢えで命を失っているそうです。私達は自分が生まれる国、地域、家庭（裕福か貧乏か？）、両親などを選ぶことが出来ません。けれども人として生きる可能性、教育は受けてほしいと願い、私は2005年からチャイルドサポーターを始めました。カンボジア、ボリビアの貧困層の子供達ですが子供達の将来、そしてこの子供達が未来の国を担ってくれることを思うと、とっても嬉しい投資だと思うのです。この投資も出来る限り継続していこうと思っています。

現在、コロナ感染は南米でも爆発的に増加しており、ボリビアでも同様で日当仕事で生活する方々が多い中、支援地域の87％の人々が食料不足状態で困窮しているそうです。　ハンガーゼロでは、アフリカの国々、アジア、中南米の開発途上国で「こころとからだの飢餓」に応える色々な活動をしておられますが、サポートをしている子供達、そのご家族、そして現地でフィールドスタッフとして頑張っておられる方々のことをこれからも祈り続けていきます。

私が神様に差し出せるものがパン一つであっても、それでもそれが誰かを少しでも幸せにすることができるのなら、それをしていきたいと思うのです。　ハンガーゼロにご興味のある方は下記をご覧下さい。

・Webサイトアドレスwww.hungerzero.jp

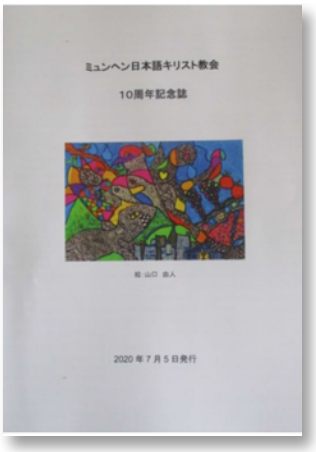
・フェイスブックfacebook
　でハンガーゼロで検索

・eメールアドレス　general@jifh.org

コロナ禍の世界的な蔓延はたくさんの波紋、問題を引き起こしています。そしていつまでなのかも分かりませんが、速やかな終息を神様に祈ると共に、今、生かされている者として感謝な思いを持って日々過ごしていきたいと願っています。どんな状況下にあっても神様の平安が私達一人一人に豊かに与えられます様に！

ミュンヘン日本語キリスト教会の礼拝開始１０周年

安藤廣之
ミュンヘン日本語キリスト教会牧師



２０１０年の２月に私達家族は前任地デュッセルドルフより、知り合いが二人しかいないミュンヘンに引っ越して来ました。当初日曜日は地元のドイツの教会の礼拝に通い、毎週土曜日に自宅の居間で日本語の礼拝と交わりをしていました。何とかこの地にも日本語による教会を立てたい一心でした。その為にも全く相応しくない者であるにも拘らず宣教師にさえなり（在欧日本人宣教会に承認して頂き）、多くの方々に祈り、献金して頂くようにもなっていました。そんな私達の祈りとビジョンを知ったミュンヘン聖書の会のある姉妹（イタリア人）がご親切にも中央駅に近いChristliche　Gemeindeという教会に日本語礼拝の場所として、施設の一部を借りる事が出来ないかと交渉してくれたのです。

その様にして日本語主日礼拝が始まったのが２０１０年の７月１１日でした。その後初めは家族だけで礼拝したこともあれば、当時余裕がなかった私の言葉や態度で傷ついて去って行く方も出たりで辛い時期も過ごしましたが、曲がりなりにも１０年続ける事ができました。その恵みの記録として記念誌を作成し（写真）、年表と３８人の証しを載せました。本来ならば今年の夏のヨーロッパキリスト者の集いに持って行って配るつもりでしたがコロナでそれも出来なくなり残念でしたが、ヨーロッパ日本語教会の交わりあればこそ今まで支えられてきました。今後共どうぞよろしくお願い致します。

キリストの弟子として

村岡崇光
オランダ日本語聖書キリスト教会

私は１９９１年の夏にオーストラリアのメルボルンから、オランダのライデン大学へブライ語教授として妻桂子と長女、次男と移住して来ましたが、その頃、ライデンには、当時ケルン・ボン教会の牧師をしておられた故佐々木悟史先生のご奉仕によって月一度日本語礼拝をもたせていただいていました。私ども夫婦はその翌年からやんどこない事情で出席を断念したのはほんの数回で、ヨーロッパの集い出席は私たちの夏の決まった行事となって今日に至っています。

東京オリンピックの年に出奔するまでには、祖国での教会の修養会やそれに類した会合には何度か出席しました。祖国でのそういった会合は、特定の教会、宗派、教団が開催し、教職者が旗を振られて準備され、また講演や礼拝でも教職者がお話くださる、という形をとりました。ヨーロッパに移住してきて刮目したのは、私たちのヨーロッパの集いは、当時はまだ西ドイツのブッパータールで１９８４年に開催された第一回以来、致し方なくではなく、ヨーロッパ在住の日本人クリスチャンの平信徒の発意、協力、尽力によって開催され今日に至っているということです。

政治的な問題についてクリスチャンの立場から話し合おう、その道の専門家の講演を聞こう、というのではなく、宗派や教派は問わず、キリストの弟子として毎夏、数日集まって、キリスト教徒として信仰と親交を深め、聖書の言葉に一緒に耳を傾け、それについて自由に、誰憚かることなく、意見を交換し合い、祈り、賛美できる、というような営みは、日本以外の国でも滅多にない、ユニークな出来事ではないか、と思います。

もちろん、準備に当たっては、主催教会あるいは集会を日頃指導しておられる教職者の先生方が貴重な貢献をして下さってきましたし、講演者も大多数は教職者でした。しかし、例外もあり、私にも声がかかって、第２２回（ゲゼケ）、第３２回（プラハ）、第３６回（ナポカ）では奉仕をさせていただきました。教会、教派、教団の活動となると、当然のこととしてその団体独特の教義、やり方、ルールがあるわけですが、一年に３泊4日、思いっきり羽を伸ばすことができるのも豊かな祝福ではないでしょうか？

近年、企画、準備、実施に伴うところの心労がかなり負担に感じられるようになって、私たちの集いの先行きが危ぶまれるような印象も受けていますが、コロナのおかげで（せいで？）今年の集いが中止になったのは、過去３６年にわたって私どもがいただいた祝福を大事な宝として噛みしめて味わい、さらに発展させるようにじっくり考える時間の余裕を神様が下さったのだ、と考えることはできないでしょうか。

神に不可能なことはない

井野 葉由美
ハンブルグ日本語福音キリスト教会牧師

今年ハンブルグ日本語福音キリスト教会は30周年を迎え、9月6日に記念礼拝を持ちました。多くのゲストをお招きできる状況ではないので、関係者にビデオメッセージをお願いし、それを上映しました。唯一のゲストは、日本語教会設立のきっかけとなってくださったコーニッツァー夫妻。彼はお祝いの言葉として、「この教会で一時期を過ごした人の多くは、この教会が霊の故郷だと言う。この教会に関わった人が今日全員集まるなら、この会堂はあふれるだろう。この教会は見えているところよりもずっとずっと大きい。初めに『ハンブルグに日本語教会を』というヴィジョンが与えられた時、とても不可能なバカげた考えのように

思えた。しかし、この地に日本語教会を建てることは、神のご計画だった。神は、状況が良い時も悪い時も変わることがない。そして神には不可能なことはない。（ルカ1：37）と語ってくださり、一同大いに励まされました。

30年の間、多くの方の祈りと献身があったこと、何よりも万軍の主のご熱心に導かれ支えられてきたことを感じ、感謝にあふれ、これからへの思いを新たにしました。

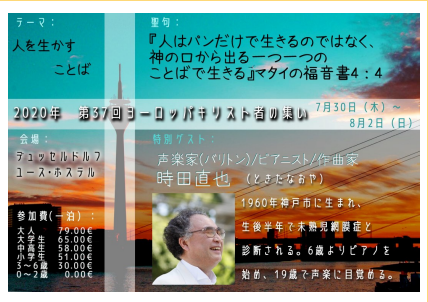
「このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競争を、忍耐を持って走り続けようではありませんか。」（ヘブル書12：1）

イエス様の約束を信じて

橋川弘毅
デュッセルドルフ日本語キリスト教会

ある日の夜、ホテルの地下の階に一人でいた時、急に電気が消えた事がありました。周りに誰もいないし、窓がない文字通りの暗闇です。時間がたっても目の前の手さえ見えません。記憶を頼りに出口に向かいましたがが、方向感覚も失い万事休す、その場に佇むことしか出来ない経験をしました。2020年のヨーロッパキリスト者の集いの準備は、そのような追体験となりました。私たちの教会にとって12年ぶりの奉仕になります。そろそろ順番が回って来るだろうと数年前から予想はしていましたが、2017年の「集い」で水を向けられた時は、お断りする理由がなく、役員会で話し合った結果、主催させて頂く事になりました。

その時に与えられたビジョンは、「集い」の準備と開催に費やすエネルギーを、デュッセルドルフの宣教に活用させて頂こうという、希望に満ちたやりがいのあるビジョンでした。2017年の夏から役員会は構想を練り、「人を生かすことば」というテーマ、「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる」という基本聖句、そして当地での宣教の目玉というべき盲目のバリトン歌手時田直也さんのコンサート。希望に満ちて2019年4月に7名の実行委員会が立ち上がり、やがて教会学校の教師会も準備に向けて動き出し、実行委員会に新たに6名のメンバーが加えられて、教会が「集い」一色に動き出した2020年3月から、目の前が暗くなり始めました。



開催に向けて舵を切るのか、中止に向かうのか全く分からない中、予想もしていない状況に呑み込まれていきました。3月上旬の時は、コロナウイルスは夏には状況が好転するのでは、という淡い期待がありました。3月下旬に東京オリンピックの延期が決定されても、ほのかな期待はあったのですが、イタリアやスペインの感染拡大に歯止めがかからず、3月下旬から施行されたドイツの規制が、いつ緩和されるのか気を揉む出口の見えない日々が続きました。

幸いだったのは、奉仕にあたっていた全員が最後まで手を抜かずに、開催に向けて一致して下さった事でした。片方の足でアクセルを踏み込んで準備を進め、同時にもう片方の足でブレーキを踏むという作業が3月下旬から始まりました。ブレーキを踏むというのは、会場となっていたユースホステルとの18,400€のキャンセル費用交渉です。何度か交渉を進め、5月末の時点でキャンセルとキャンセル費用免除の申入れをしましたが、結果としてキャンセル費用の免除は両者が合意した形では終わっていません。法律の専門家のアドバイスによると、2023年末までは請求権があるとの事で、「集い」は開催されなかったにも関わらず、「集い」は終わっていない状況が続いています。

何故、神様はこのような状況をお許しになるのだろう、とアクセルとブレーキを同時に踏み続けていた時も、また今でもそう思います。この証の機会を与えられて、御言葉にその答えを求めました。

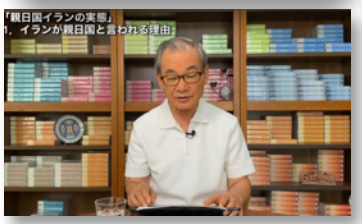
「そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならないのですが、信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」ペテロの手紙第一　1章6～7節

よく見るサイトにこういう記事が紹介されていました。「木の年輪の中心は真ん中になく、北側にみな片寄っています。日光を十分受けて育つ南側は年輪の目が幅広く、よく成長しますが、北側は寒さから身を守るために厚い皮をつけて戦うので、年輪の目が幅狭く、年輪の中心が北側に片寄ります。ところが伐採され製材される時、陽の光を受けて育った南側の部分は板になり、北風を受けて育った部分は柱になります。柱は家で最も重荷がかかり大切な部分となります。材木でも、逆境で苦労して鍛えられてこそ、柱として大切に用いられるのです。」

私達は、今までの人生で経験した事が無いコロナウイルス感染の中で、生活をしています。2,662万人以上の方が感染し、87万人以上の方がお亡くなりになりました。経済的に立ち行かなくなった方々の数は分かりません。ワクチンも治療薬もない中、全ての人が大変な日常を凌いでいらっしゃる事と思います。信仰者にとっての今は、試練の時ですが、この試練は朽ちて行く金よりも尊く、やがてイエス様が再臨される時に称賛と光栄と栄誉に至るとの約束を信じて、北側の年輪、柱として成長させて頂ける時だと、この証の機会に思わされました。

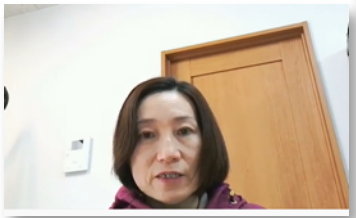
第15回（1998)ケルンでの集いにて

コロナ禍を機に
誕生した優れた
YouTube講座
タイトルをクリックして
ご視聴いただけます。



中川牧師の書斎から

松本章宏　YouTube 聖書講座



安藤里佳子：子育てトーク

この動画は限定公開ですが、興味がおありの兄姉は、次のメルアドにご連絡ください　。mouerikakomagami@gmail.com

コロナ災禍での留学生活

清水摂

米国カリフォルニア州JCFN宣教師

私は、主にアメリカで留学生・駐在員を対象にした宣教と、クリスチャンになった方々が帰国の際のフォローアップミニストリーを働きとしているJCFNで仕えており、学内で伝道をしている学生たちを励まし、訓練やリソースを提供しています。

しかし、このパンデミックによって、留学生伝道も一変し、足止めを大きく食らっているような状況です。実際、アメリカ全体の留学生は激減し、例年の1割を切る大学もあるようです。三密を避けるため集会は持てませんし、在学中留学生とのつながりも途絶えているような状況で、ほとんどいない新しい日本人留学生との出会いをどのように作ったら良いのか、暗中模索のような状況です。

今までが通用しない中、人数も激減している中ですが、救いを求めている魂があるのは確かです。オンキャンパスの伝道活動はすべて停止ですが、オンラインでの伝道活動を通してなんとかして福音を伝え続けていきたいと願っている学生達を応援しています。実際、ニューヨークの大学で、この秋学期から新しく日本人留学生を対象にした伝道活動、「いっぷく」を始めた日本人留学生がいます。彼女は、「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。（2テモテ4:2）」に励まされて一歩出たそうです。私自身も、この御言葉とイエス様の愛に励まされ、この状況の中、伝道の機会を祈り求め、オンラインであろうと、ソーシャルディスタンスがあろうと、イエス様の愛を伝えていきたいと、今まで以上に願い、祈らされています。

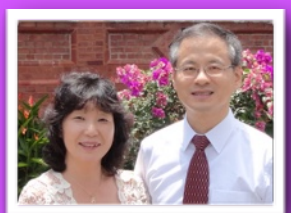
そして、いつも年末に南カリフォルニアで開催しているイクイッパー・カンファレンスですが、EC20 Beyondとして、オンラインで行うことにしました。オンラインになったからこそ、北米だけでなく、日本、アジア、オセアニア、そしてヨーロッパからも参加者が与えられるようにと主に期待し祈り、準備を進めています。時差を考えてプログラムを作成中です。ぜひ、お祈り下さい。そして、ご参加下さり、共に主を賛美できたら、本当に幸いです。www.equipper.org

今ならできるんじゃない？

松本章宏

シンガポールJCF牧師

シンガポールの私たちの教会は、3月22日（日）から突然使用不可となりました。最初は2週間だけの予定でしたが、長引きそうな様子で何をすべきかと考えました。実は、長男から「日本には教会に通っていないクリスチャンがたくさんいる。そういう人たちのための聖書講座をYouTubeで始めたらどうか」と言われていました。



私は2022年3月に9年間のシンガポールJCFでの働きを終えて、高齢の母の介護のために北海道の釧路に帰りますので、それからそのような働きをしようかと思っていましたが、長男から「今できるんじゃない」と背中を押され、「松本牧師のYouTube聖書講座」を始めました。

それに先立って、Zoomを使った祈り会やバイブルスタディを毎日行うようになったのですが、これまで東南アジアで関わった方々、また、8年前に渡り鳥夫婦としてヨーロッパに行った時に知り合った方々が世界中から参加されるようになり、その方々に祈っていただいて試行錯誤をしながら、週3回動画をアップするようにしました。

4月17日から始めて3ヶ月半経ちましたが、3400名の方々がチャンネル登録してくださり、救いについて真っ直ぐに語った動画などは3万回以上視聴されるまでになりました。今年は3月末からイスラエル旅行、4月はバンコク、5月はペナン、7月は日本、9月はパウロの足跡を辿るトルコ・ギリシャの旅を予定していましたが、ことごとくキャンセルとなりました。しかし、だからこそこの働きを続けることができたことを考えると、今はこれをすべき時だったのだと思います。ぜひご覧いただけますと幸いです。https://www.youtube.com/channel/UCWNmgwj70s3NU5doYPLhv0Q/videos?view_as=subscriber

ようやく3ヶ月遅れで7月12日に教会総会を開催し、7月26日から「50名まで」という制限付きで礼拝堂での礼拝を再開しました。しばらくは、ZoomとYouTubeも駆使した三刀流の働きを続けていきたいとおもいます。2022年4月以降、ふさわしい牧師が与えられますようにお祈りいただけますと幸いです。

聖書講座動画撮影の光景

主の導き

菊地祥彦
豪州　Coromandel
Baptist　Church

早いもので、オーストラリアに越して来てから4年が経ちました。その間に与えられた息子の眞理(しんり)は、3歳半になりました。そして今年初め、こちらで家を建てることに決め、それが今月(8月)完成し、無事引越しすることができました。

オーストラリアに来る前までは、自分が渡豪し、外国で息子が与えられ、家族で長く住むことになるとは思ってもみませんでした。本当に主のなさることは奇しく、主のご計画は計り知れません。昔の自分が思い描いていたような人生では全くありませんが、着実に主の導きの中を歩ませていただいています。今至ってる状況からそれが分かるというよりも、自分の人格が主の御手によって変えられていっていることから分かります。もし自分の願い通りの人生を歩んでいたら、偽善的なクリスチャンで生きてしまっていたとよく思います。

神様は私たちの心をご覧になり、その心を求めておられます。この罪深い心が、主のご人格に似ていくことを。"自分の人生を自分の思う通りに歩みたい"という欲求に縛られることがありますが、主に委ねて歩んでいきたいです。そして、パウロのように、どんな状況にいたとしても、主を宝とし、主を喜びとしていたいです。

バイブルスタディは、アデレードに住む日本人クリスチャンの人たちと週一でオンラインで行っています。外国に住んでいても、母国語で交わりや祈り、聖書勉強の機会を持てることは感謝ですよね。皆さんもどうかお元気で！

みことば朗読入り　東スイス
自然写真スライドショー

東スイス春から初夏へ

アルプシュタインの初夏

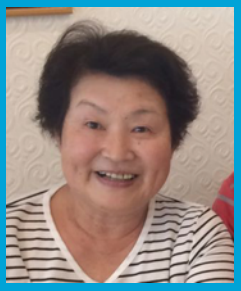
夏のアルプシュタイン山岳ツアー

スイス初夏の花

青字のタイトルをクリック

ステイホームの恵み

内山和子
横須賀市・馬堀聖書教会



私は神奈川県に住んでいます。神奈川県は東京と隣接する東京のベッドタウンですので、東京に勤務している方が多くコロナ感染者が東京に次いで多発しています。でも横須賀市は県の南のほうに位置しますので今のところ守られています。

主人もすでに仕事からリタイアしていますのでステイホームと言われれば家での時間を楽しんでいます。今まで出かけることが多くて家の近所を散歩したりもしなかったのですが、東京湾沿いの海辺ウォークを歩いてこんないい所に住んでいたんだと再発見しました。。

今年の6月にはスイス教会の修養会に誘っていただいて楽しみにしていましたが、それもキャンセルとなり残念でした。ところが、思いがけず神様が私に新しいタスクを与えてくださいました。松林兄がスイスの美しい自然のスライドショーを御言葉入りで送ってくださり、その御言葉を朗読してくださいとのご依頼をいただきました。

私にとってそれは大きなチャレンジでしたが、松林兄が試練の中にある方々に神様からの慰めと励ましが与えられるようにとの願いをもってスライドショーを作っておられることを伺い、朗読のご奉仕をさせていただくことになりました。感謝と喜びでいっぱいです。

もう一つ最近気づいた恵みについて証させてください。今までは毎週教会に行けることは当たり前のように思い、主の日の礼拝と水曜日の祈祷会に出席することで安心していた信仰生活でしたが、突然教会に集いそこで御言葉を聞くことができなくなり、家で毎日毎日聖書を読み祈る生活となりました。すると、神様との個人的な関係がより密になりました。神様からの祝福を感謝しています。

でもやはり主にある兄弟姉妹と会って親しく交わりのできる日を一日も早く神様が備えてくださることを待ち望み祈っています。

皆さまも健やかに過ごされてまた再会できます日を楽しみにしています。

横須賀の海辺

弱さと共に生きた三輪先生

増谷啓

オランダ南部日本語キリスト教会伝道師

ドイツ最南端のボーデン湖近郊に住んでいた三輪先生は月に一度、電車を乗り継いで片道4時間かけて礼拝説教に来てくださっていました。先生には、私がドイツ南西部のシュトゥットガルトで働いていた11年間、初めから終わりまでお世話になりました。洗礼、教会員、会計役員、神学生、伝道師へと信仰の歩みを祈り導いて下さり、リストラを機にオランダに転職することになった時も快く送り出して下さりました。

海外の日本語教会は多種多様なバックグラウンド（教団教派）のキリスト者が集うため、共同体として一致するためには多くの祈りと知恵が必要です。シュトゥットガルト日本語教会にはカトリックや仏教徒の方もいましたが、三輪先生はその敬虔で温厚な人柄で人々を結び付けました。神学論争よりも「この人は何故このことに引っかかるのだろう」と、その方の心に気を配る先生でした。何か問題があれば「困ったなぁ」と頭を掻きながら苦笑し、皆が一致して問題に対処できるような自主性を大切にされました。

ある修養会での交わりタイムで、三輪先生が専任牧師として招聘された時のことを聞きました。その時先生は「私が牧師の間は絶対教会を分裂させない」と心に決めて引き受けたと語って下さいました。普段はこんなに強く自分の意思を表すことはないので驚いたことを覚えています。聖書は「教会の一致」に関して、からだの譬えを用いています。「それどころか、からだの中でほかより弱く見える部分が、かえってなくてはならないのです。」第一コリント12章22節

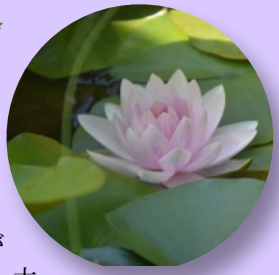
私はこの「弱く見える部分」が三輪先生のことではないかと思わされています。弱さの中にこそ神様の強さが現わされるからです。先生は、平日は心身障害者の福祉施設で働き、人々の弱さに寄り添いながら自分自身も狭心症を抱えられていました。そんな「弱さ」と向き合い、「弱さ」と共に生きる三輪先生の説教や人柄、そして神様の恵みゆえに私たちは一致していたのです。

2015年8月三輪先生は専任牧師を引退され、その後、ご家族の住むベルリンへ引っ越されました。11年間このような敬愛する牧者のもとで信仰生活を送れたことを神様に感謝いたします。シュトゥットガルト日本語教会の兄弟姉妹の皆様、そして残されたご遺族にも主の平安がありますようお祈りいたします。

愛で私たちの個性を包んで下さった

小山由美

シュトゥットガルト日本語教会



シュトゥットガルト日本語教会３３年の間に６人の牧師先生をお迎えしました。どの方もエリート大学出身の所謂"インテリ軍団"であります。説教の内容も聞きごたえがあり、中のお二人は当教会を牧会後、大学の教授となられて日本に帰国なされました。しかし、その中でインテリを全く出すことなく私達の輪の中に弱い者として１５年も牧会して下さったのが三輪先生でした。心底謙虚なご人格で、その愛で私達一人一人の個性を包んで下さいました。私達も先生を心からご信頼し、尊敬し、先生の元に毎回の礼拝には３０名程集められ、傷ついた羽を休める教会となっていきました。

いつのことだったでしょうか、私が罪の意識で心に溜めて置けなくなった時、思い切って先生に罪の告白をしたことがありました。三輪先生は批判なさることも、諭すこともなく、私を困ったようなお顔でじっとご覧になりました。そして "小山さん。。" とただ一言。そのお顔を見て私はもう二度とこんなことはすまい、と心に誓ったのでした。

今になってみると新約聖書でイエスさまが姦淫の罪で連れて来られた女の前の地面に、何も言わず何か書いておられたあの場面を思い出します。そう、三輪先生はイエスさまの後ろ姿でおられたのですね。牧師先生として素晴しい説教をなさった以上に、そのご人格で神の家である教会を守って下さいました。

三輪先生、今も心から感謝しております。どうぞ天国で待っていてくださいね。

「日々の聖句を読んでいますか？」

横井秀治

シュトュウットガルト日本語教会

三輪先生と最初に会ったのは、1994年の夏だった。ドイツ国内に住む日本人牧師家族とドイツ人牧師数名が集まり、親善を含めた集会だった。場所は旧東ドイツ、五十名ぐらいの参加者がいたことを覚えている。その中には、梅本牧師・中道牧師・佐々木牧師・秋山牧師・秋葉牧師・南牧師、そして三輪牧師がいた。牧師家族以外にも、岡さん家族やクリステーネ、鈴木のぞみさん、それに私の家族もいた。

昼間は神学的テーマにそって皆で話し合ったが、お互いがよく知り合うことも目的の一つだったので、皆で近くを歩いたり、また子供づれ家族も多くいたので、電車に乗ったりもした。　夕食後は、自然と日本人の輪ができ、小さなテーブルを囲んでの話となっていった。皆ユーモアが富んだ牧師たちだったので、笑い声が絶え間なく、夜中まで続いていた。その中に三輪先生がいて、ひと際皆の笑いを誘ってくれた。当時先生の髭は真っ黒で、私もそうだったが、皆若かった。二晩そのような笑いの時間を持ったのである。実に楽しかった。

それから時が経ち、三輪先生がシュトゥットガルト日本語教会の牧師として月一回の説教や毎年催される秋の修養会、それに聖書研究会を開いてくださるようになった。

先生は百パーセント福祉施設の職員として働き、余った時間を私たちために尽くしてくれて、それも列車を乗り換え、四時間以上もかかって私たちの教会に足を運んでくれたのである。いつもにこにこして、私たちの願いを聞いてくれて、１４年間説教を休んだ日はなかった。私たちは、感謝に尽きなかった。私自身、先生が来て、一年後に洗礼を受け、その時に先生から本三冊(内村鑑三著)を頂き、感激したことがあった。日本からわざわざ取り寄せてくれたのである。この時も先生は、笑顔で渡してくれたのだ。

福祉施設を定年退職する直前に、先生は心臓病に罹り、私たちの教会も辞めざるを得なくなってしまった。まだまだ、続けてくださると思っていたのに、残念でならなかった。

ベルリンに移ってから、先生に会うために、私と妻は先生宅を訪れたりもした。昨年は三回ほど行ったことになる。

ベルリンを訪れた時、「日々の聖句を読んでいますか」と訊かれたことがあった。それ以後、私は妻と一緒にLosungen（聖書の言葉）を読んでいる。先生は、そこに希望をもっていたのだと思う。　先生は私たちの教会を愛してくださり、そのことを胸に秘め、私は寂しさからまだ解放されていないが、今日もLosungenを読む。青空に浮かんでいる白い雲を眺めていると、先生の笑顔のように見えるのだった。

「こんなマンネリ大歓迎です！」

松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会

ストレスが重なり、心臓を病まれ、その後、腎臓を悪くされ、透析の寸前まで行かれ、透析は免れそうだとのうれしい知らせを聞いてからどれほどになるでしょうか？

三輪先生（私たち家族は先生を親しみを込めて”ヨシ”と呼んでいました。）と私は同い年で、職業もソーシャルワーカーで、母教会も日本基督教団津教会、欧州人の妻を持ち、三人娘もほぼ同年齢という多くの共通項をもっていたこともあり、ドイツに移住されてから、年に一度は家族でスイスの我が家に遊びに来ていただき、家族ぐるみで親しい交わりをさせていただきました。お寿司が大好きで、来られる度に寿司を用意しますと、あの人懐っこい顔を思い切り綻ばせて”こんなマンネリ、大歓迎です”と大喜びされたのが思い出となり心に刻まれています。

私が５０歳になった時、リトグラフ作品集を出版しましたが、その画集の中の私の駄文・異国遍歴をドイツ語に訳し、人差し指でワープロを打って原稿を作って下さったのが三輪先生です。気の遠くなるような途方もない時間がかかったことと想像します。しかし、三輪先生はそのご苦労に言及されることは一度もありませんでした。次女のソフィさんが住まわれるベルリンに引越しされてからは音信も途絶えました。その後、マルギットさんから２度ほど絵葉書をいただいて、あの穏やかな”ヨシ”さんとの再会を願っておりましたが、叶う前に召天され無念な思いをしております。天国での再会を今は楽しみにしています。